

※今月のみ受注の書目です。注文が重複した場合は、多い方の冊数で進めさせていただきます。

仕事から見た「2020 年」

結局、働き方は変わらなかったのか？ (2022 年 3 月下旬刊行予定)

玄田有史 (東京大学社会科学研究所教授)・萩原牧子 (リクルートワークス研究所調査設計・解析センター長) [編]

[執筆] 阿部正浩 (中央大学教授)、太田聰一 (慶應義塾大学教授)、大谷碧 (リクルートワークス研究所)、久米功一 (東洋大学准教授)、孫亜文 (リクルートワークス研究所)、照山博司 (京都大学教授)、三輪哲 (東京大学教授)、茂木洋之 (リクルートワークス研究所)、山本勲 (慶應義塾大学教授)

四六判仮フランス装 / 288 頁 税込予価 1,980 円 ISBN978-4-7664-2806-3 C0033

👉 ココに注目！

- ・コロナショックによる働き方の変化は、社会と働き手にどんな影響をもたらしたのか。
- ・「2020 年に起こったこと」を正しく理解するための画期的な一書。

リクルートワークス研究所が 2016 年より継続して行ってきた、約 5 万人を対象とする、生活や働き方に関する貴重な大規模パネル調査を基に、日本にとっても一つの分岐点になるであろう「2020 年」がどういう年であったのかを、仕事の観点から詳らかにしていく。

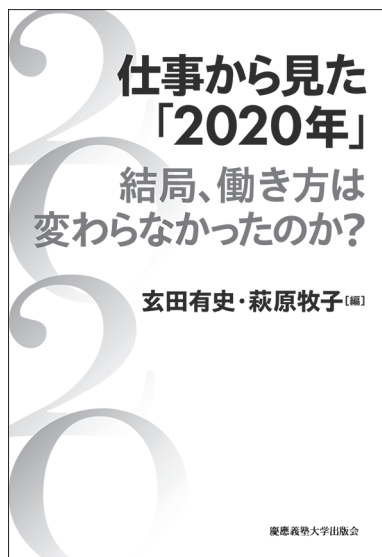
このパネル調査は現在も継続中であり、感染拡大する前後における同一個人の働き方の変化を明らかにできる、唯一無二の統計情報となっている。近視眼的な読み解きではなく、「歴史証言」として長く読まれることを想定し編まれた稀有な作品。

対象 一般 (日本人の働き方や労働問題に関心を持つ読者)

「2020 年」を読み解く具体的なポイントを一部紹介

- ＋ 感染拡大の緊急事態に適応できたのは、感染前にどのような環境にあった人なのか。
- ＋ 緊急事態後のみならず、持続的に働き方を変えたのはどんな環境下の人たちなのか。
- ＋ 感染拡大によっても、まったく働き方が変わらなかったのはどんな環境下の人なのか。
- ＋ 感染拡大は、人々の働くことの意識や価値にどのような影響を及ぼしたのか。
- ＋ テレワークによって満足度や生産性を高めたのは、どのような環境下の人だったのか。
- ＋ 在宅勤務は、職場の人間関係や仕事のシステムをどのように変えたのか。
- ＋ 感染拡大を契機に住居を移動した人の働き方と、それがもたらしたことは何なのか。
- ＋ 企業の雇い止め、レイオフ、解雇などの影響はどれくらいあったのか。

👉 主要目次・注文書・関連既刊は裏面に掲載！ ぜひご確認ください！



書影イメージ

【主要目次】

- 序章** ※本書の議論のベースとなる調査の概要と各章共通で使用する図表を掲載（リクルートワークス研究所）
- 第1章** 働き方の柔軟性と新たな格差
——労働市場のメガトレンド
- 第2章** 労働市場の二極化を検証する
- 第3章** 田舎の仕事、都会の仕事
——感染による地域間格差への影響
- 第4章** 感染拡大と「働きがい」の変化と格差
——ワーク・エンゲージメントの視点から
- 第5章** 感染拡大が引き起こした企業規模間の格差
——「規模」から浮かび上がる格差の今後
- 第6章** キャリアを通じた階層移動の機会
- 第7章** テレワークへの移行と定着、そして効果
- 第8章** テレワークの普及に必要な労働者代表
——孤立を防ぐための集団交渉
- 第9章** 「休業」が在職者にもたらしたもの
——収入・満足度等への影響
- 第10章** 休業手当は就業継続につながったのか
——手当支給の影響と効果
- 第11章** 子どもを持つ就業者のワーク・ライフ・バランスは変化したのか
- 第12章** 社会人にとって「学び」の持つ意味とは
——2020年は「学習」の意味をどう変えたのか
- 終章** 総括——何が変わり、何が変わらなかったのか



ご注文は FAX で！ 03－3451－3124



新刊委託	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			玄田有史・萩原牧子 編 仕事から見た「2020 年」 —結局、働き方は変わらなかったのか？ ISBN978-4-7664-2806-3 C0033	1,980 円	★★★★★ ★★★★★

★1つで「500部」を表します

【関連既刊のご紹介】

返品条件付注文品	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	定価（税込）
			玄田有史 編 人手不足なのに なぜ賃金が上がらないのか ISBN978-4-7664-2407-2 C0033	2,200 円